

てドラム缶に貯めるといふ処理をしている。

制御棒案内管中の異物は、現在、原因調査中。他にも物が紛れ込んでいないかを確認する。

●異物管理の問題点

意見

異物問題が出る前、下請や孫請で働いている若者から持ち出してはいけないような物をどう処理しているか、誰に相談していいかわからないという状況があることを聞いたことがある。自分の上役に言うとは面倒という、その辺が問題点なのかと思うので、お考えいただきたい。

●不適合委員会の体制

Q

不適合委員会が作られたので、異物問題等の話しが出てきてもいいはずだが、1件もなかったという。この委員会を作ったことでかなり改善されたということだったが、実際に機能しているのか。

A

今回の靴等、異物についての報告はなかったが、今年7月にプールに分度器を落としたという申告があった。これから重要なのは、言いやすい雰囲気を作ることだと思っている。

●下請との関係

意見

東電内部では昨年来、ISO等の整備、仕組みを作る為の対応をしたと思うが、下請には仕事に形骸化してきて今まで通りやればいいとする風潮が見受けられる。

ISOは社員教育をする為の道具だと思ふので、それを使いながら、どう下請にも同じレベルの仕事をしていただくか、基本的なことをどう教育していくか、その辺を真剣に考えていただきたい。

※ISO…工業・農業産品の規格の標準化を目的とする国際機関の略。様々な規格を制定している。ここでは品質保証の規格をいう。

A

確かにこれまでは、目が社内の方へ偏っていたと思う。今後は現場の中心になっている方々との現場・現実を踏まえた改善をやっていく為に新しい組織を作ろうと思っている。しかし、一番大事なことは組織を作ることではなく、現場で実際に改善に取り組むことを繰り返すこと。これについては実施状況等、折に触れて説明していきたい。

●インセンティブ制度との関係

Q

物を落としてもミスを言いにくい

作業環境の改善を考えているとの説明だが、インセンティブ制度の導入により、業者が作業時間の短縮を強いられているからではないか。

※インセンティブ制度…報奨金制度。定期検査短縮により代替電源の火力発電の燃料等が節約でき、その分を請負業者にも還元する意味で報奨金を出す制度で平成9～13年度まで実施。

A

ご指摘の点は改善しなければならぬもの。これまでの調査では、今回の停止期間中の工事で大部分が落ちたと分析しており、言いにくいという要因の他に、他の要素もあると思っている。

作業時間の短縮という点も、言いにくいということを生む素地の一つであると思定しておくべきで、大切なのはそういうことがあってもいいような、工程上のセイフティーネット（安全策）を用意しておくことだと思ふ。

落ちた要因を分析し、防ぐには、正直に言っていただけのことであり、インセンティブを考えるとすればそういった事を真剣に考えるべきと、反省を込めて思っている。